

教職支援センター活動報告②

—面接指導（小学校）を中心として—

天 野 聖 子
(教職支援センター特任教授)

1. 相談利用状況について～学生数から見る傾向～

2021年2月から10月までの相談利用総数は延べ279人であった。以下に相談利用の詳細を示す。勤務日週3日（月火木）ののべ数である。

表1 月別相談利用数

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	合計
実数（人）	14	19	27	48	35	34	30	5	2	212
のべ数（人）	21	36	38	58	47	38	33	6	2	279

今年度は、指導時間の変更を行い、1コマを60分から40分にした。1日にできる面接回数が最大7回となり、より多くの学生の利用が可能になった。その結果、昨年度ののべ総数は、144名であったが、今年度は、279名と約2倍の増加となっている。同じ学生が繰り返し利用する傾向がみられ、練習の機会の確保が容易になってきたことを示している。

令和4年度教員採用選考試験を受けた学生は、3回生の2月から面接練習を始めた。この時点で面接練習を始めた学生は、8月末くらいまで計画的・継続的に面接指導を受けに来ている。コロナ禍の最中でもあり、Zoomによる面接指導が主であったが、

友達同士が画面上で面接練習を行う形であっても熱心に参加をする学生の姿があった。また面接練習終了後も互いに連絡を取りながら自主練習を行うなど、協力体制を取りながら繰り返し練習を行う姿も見られた。

グラフに表れているように相談利用数が多かったのは5、6月である。6月末の筆記試験の後に行われる面接試験に備えて、筆記と面接の対策を並行した受験体制をとっていることがわかる。また、8月以降は、2次試験、3次試験に備えて、集団面接、集団討論、模擬授業をグループ単位で申し込む学生が増えてきた。特に模擬授業においては、「対面」を希望する学生の声も聞かれ、6月末ごろから7月にかけて、少しずつではあるがコロナの感染数が減少していることを受け、「対面」と「Zoom」のどちらかを学生が希望選択する形をとった。教員採用選考試験終了後の9月、10月には、個人面接指導を希望する学生が若干いた。相談内容は進路指導的な相談である。採用試験に不合格だったことから今後の進路に関する相談、複数の自治体に合格した学生からの自治体決定に関する相談、複数の自治体を受験したが第一希望の自治体が不合格となり、合格した自治体の教諭として就職するのか、来年度第一希望の自治体を再度受けるのかなどの相談が主になってきた。

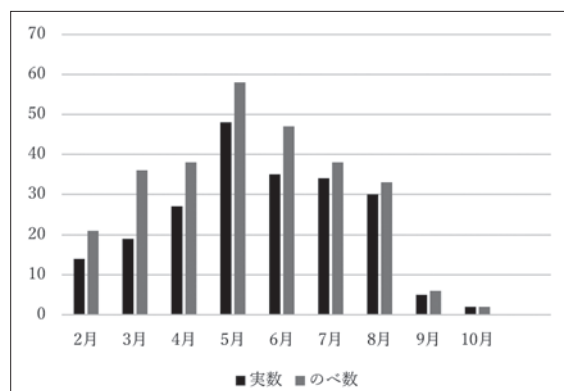


図1 月別相談利用数

表2 所属別相談利用数

	国文	英文	史学	教育学専攻	心理学専攻	音楽教育学専攻	児童学科	食物栄養学科	生活造形学科	生活福祉学科	現代社会学科	法学部法学科	合計
実数（人）	1	0	0	96	0	1	1	3	0	14	0	0	116
のべ数（人）	1	0	0	232	0	1	1	9	0	35	0	0	279

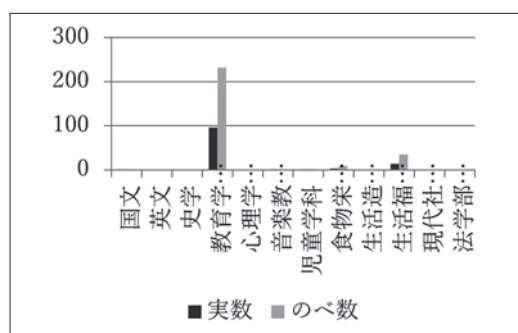


図2 所属別相談利用数

所属別にみると、面接練習に来る学生は小学校教諭を目指す教育学専攻の学生が圧倒的に多くのべ人数は232人である。少数ではあるが、栄養教諭を目指す学生や養護教諭を目指す学生の面接指導も行った。栄養教諭や養護教諭を目指す学生は、教員になってどの校種に配属されるのか分からない。しかし、どの校種に配属されても一人職・専門職として他の教職員とのコミュニケーションを大切にし「チーム学校」の中で学校運営の重要な役目を担う仕事をするようになる。「専門的な知識を他の教職員とのコミュニケーションを通してどのように活用し、学校運営に活かそうとしているか」などの質問内容

を投げかけることで、学校現場の中での専門職としての決意をアピールできるように指導してきた。特に、集団面接や集団討論では、小学校教諭を目指す学生と栄養教諭、養護教諭を目指す学生がグループを組んで一緒に練習する機会を設けることで、同じ職場で仕事をしていく上での仲間意識と広い視野での回答内容が生まれる相乗効果があった。

2 相談内容から見る状況～面接内容から見る課題と主な助言内容～

面接内容の主な種類は「個人面接」「集団面接」「集団討論」「模擬授業」「進路指導」である。それぞれの面接の状況と課題について述べていく。

①個人面接

個人面接では、教員採用選考試験の志願書提出時に出すエントリーシート（プレゼンテーションシート）に記入する内容を中心に質問をされる場合が多い。例えば、志望理由である「教員を志望する理由」「その自治体を志望する理由」、自己アピールとして「自分の特技、長所、短所」「取得している資格」などである。個人面接は、第一印象が大切である。学生の所作や質問に対する反応、回答内容でその人柄や教師としての資質を見抜かれる。

ここでの学生の課題は、シートに書いたものをそのまま回答しようとする傾向である。シートに記入した内容を棒読みするのではなく、自分のものとして具体的に発言することを助言してきた。そのために、「教員を志望する理由」であれば、教員という職業を意識した時のことやその時の思いを具体的に伝える。自己アピールであれば、アピールする内容を教員になるにあたってどのように活かすのかなど、自分にしか答えることができない具体的な内容に再構築して発言することを常に助言してきた。

②集団面接及び集団討論

「集団面接」や「集団討論」は、個人面接では見ることのできない「集団の中での個人の独自性」が重視される。集団の中であっても自分の独自性をどのように表現するかが難しい。学生たちは、主体的に同じ自治体の採用試験を受ける者同士や自治体が違っても仲間を集めてグループを組んで練習に挑んできた。また、教育学専攻の学生と食物栄養学科や生活福祉学科の学生が組んで面接練習を行う姿も見られた。互いの立場は違うがその違いは質問のテーマに対する個々の考えを深めるものに変容する効果があった。例えば、「食物アレルギー」をテーマにすると、小学校教諭、栄養教諭、養護教諭などそれぞれの専門性や立場からの意見を交わすことができる。同じ専攻の学生が集うよりも討論の内容に深みが出ることもあった。面接練習は、繰り返し行うことで話し方や所作などが上達することも利点である。それ以上に仲間の意見や考えに触れることで、本番に向けての情報が蓄積、構築されるという利点が大きく、練習で深めた考えを本番の面接試験に活かすことができたことを確信している。

「**集団面接**」では、同じ質問を何人かの受験者に投げかけていく。前の人と同じような回答内容であっても自分というものをアピールする具体的な事例などが発言の中にあるかどうかを試験官は期待している。回答の内容が似通っていることに焦り、うまく発言できない学生には、この経験を次の練習に生かすことを助言し自分をアピールできる具体的な事柄を情報として振り返ることやその事柄の意味を考えてくるように助言している。

「**集団討論**」は、主に現在および未来に向けての教育課題に関するテーマを与えられ、話し合いの中で協働的に解決に導こうとする意欲があるかなどの観点が重視される。例えば「今の子どもに必要な資質・能力は何か？ その資質・能力を育成するためにどうするか」「ICT 教育を進めるためにどのようなことに取り組むか」などのテーマで話し合いを進めていくことになる。相手の意見や考えをどのように捉えて自分の意見を述べようとしているかなど、コミュニケーション力と個々のアピール力が試される。

学生が陥りやすい課題は、「自分以外の受験者の発言の中に自分の考えを取り込んで話すということができにくい」点、「1つの考えや意見に流され、討論のテーマから外れていく」といった点である。つまり、話し合いの3つの要素「**聴く**」「**話す**」「**考える**」をコントロールしにくいという課題である。特に司会者になった学生は、そのリーダー性を評価される利点はあるが、話し合いの流れや時間配分、発言者への気配りなどが先行してしまい、自分の力を発揮することができにくい状況に陥りやすい。そこで建設的な内容の討論にしていくことを目標にするために下記のような助言行ってきた。

○時代や自治体に合わせた教育問題の知識をもっておくこと

○知識を知識だけに終わらせず、具体的な経験や考えなどを合わせて能動的に教育問題に向き合う姿勢をもっておくこと

○他の人の意見を批判的に見るのではなく、自分の意見を重ね合わせて共通点や違いから自分なりの考えをもつこと

そして、一番重要なことは繰り返しの練習を重ねることや司会役も積極的に体験する機会をもつなど、討論の場に慣れることを指導してきた。

③模擬授業

模擬授業は、各自治体によって事前に教科や単元が示されている場合、試験会場で初めて内容が知られる場合などがある。いずれにしても、臨機応変に授業を作成したり、児童がいる学級を想定して授業を進めたりする能力があるかを試験官は見ている。与えられる時間が8分や10分程度の短時間である。授業の内容や熟練の有無というよりも、笑顔で元気に学級全体の児童へ話しかけられるか、机間指導などでは目的や様子を把握した具体的な動きになっているかなどを観察し、児童の前に立つに値する人材かを観察している。

学生が陥りやすい課題は、自分の作成した指導案に忠実であろうとするために、授業の流れが固くなった児童への声掛けに余裕がなくなったりする点などである。指導案などは、大学で培ってきた指導案作成の力を発揮する必要はある。しかし、模擬授業では、教室にいる教師である自分を具体的に想像できるかが重要である。余裕をもって児童の動きを想像しながら「笑顔」で「元気な声」で行うこと、教室の様子（今どこにいる・掲示物を使うなど）を思い浮かべながら自分の動きをアクティブに見せることを重視した。話し方では、学年の発達段階にあった言葉遣いや用語を使うこと、板書に関しては、授業のめあてを意識すること、学年の学びに合った漢字を使うこと、書き順や字の大きさを意識することなど 基本的な点などを助言してきた。

④進路指導

進路指導に来る学生は主に2パターンある。1つ目は、3回生の秋口から、相談が寄せられる教員採用選考試験の学習法についての相談である。教職支援センターでは毎年、採用が決まった4回生の学生を選んで、試験対策をどのようにしてきたかの動画をアップしている。また、東京アカデミーの主催する小論文講座、2回生から始める教職セミナーの開催、個人面接の指導など、採用試験対策への支援を行ってきている。学生に対して上述の内容を知らせたり、実際に進路指導の場で一緒に動画を見たりして助言をするなどを行ってきた。特に先輩学生の試験対策の動画は身近な存在からのアドバイスとして受け止めやすく、採用試験までの見通しをもつことができたという学生の声を聴くことができた。

2つ目は、9月頃より、採用試験に不合格だった学生のこれからについての悩み相談や複数の自治体に合格した学生の自治体決定に関する悩みなどの相談である。特に深刻なのは、不合格の学生の落胆をどうフォローして次の選択に導くかである。実際に、面接指導に仲間を誘ってリーダー的に行動していた学生が、不合格の通知を受けてくることがあった。学生にとっては人生の岐路に立って一番進みたかった門を閉ざされ

た気持ちになっている。このような学生は、「自分には教師という仕事は向いていない。」と勘違いしてしまうケースがある。そのような考えを払拭して、「自分が一番進みたい道」を選択させる必要がある。助言としては、常勤講師などで実績を積み、次年度の試験に挑戦するという道があること、常勤講師などの手続きをどうするのかなど丁寧に説明していく過程を大切にしている。また、もう少し教育について学ぶことを選択したい学生には、大学院に進む推薦制度があることなどを説明することも行っている。

また、複数の自治体に合格した学生が、自分の希望する自治体を選ぶ際の助言の必要性も感じている。自治体を選択する過程で自分が意図した環境ではないところに配属されるケースもある。また、どの自治体の教員になるにしても長い人生を考えた場合、今後の人生においてどのような影響があるかということも含めて、学生自身に自分の将来を見据えた選択を行ってほしい。中には、家族を無視した考えをもっている学生もいる。どんな選択をするにしても家族に自分の将来についての思いや考えをしっかりと伝える機会をもつことを助言している。現在は若い学生もやがては年齢が高くなり様々な人生の岐路に立つ時があることを踏まえた選択の必要性をもたせたい。また、女性であるがゆえの悩みを抱える場合がある。例えば、教諭として活躍していても結婚などの理由で現在の自治体から移動を余儀なくされる場合がある。移動した先の自治体の試験対策なども卒業生を対象にした支援を行っている旨を伝えておくことも行っている。せっかく獲得した教職の仕事を一生の仕事として継続していくという意識をもち続ける女子学生の支援の場として教職支援センターの存在を位置付けていきたい。

3 課題と改善のための取組

昨年度、面接練習を行って感じた課題は、特任教授と教職カウンセラーの「協働の在り方」である。同じセンターで同じような業務をしながら学生情報や支援方法の交流などが希薄であったことが課題としてあげられた。このことは、学生の情報把握が滞り適切で一貫した指導ができにくいといった状況をつくる原因となる。

そこで改善策として今年度は、昨年度も行った「教職応援セミナー」を特任教授と教職カウンセラーの協働のセミナーとして新しくたち上げることにした。（表3参照）2回生には、教職への意識を高めるため「教職現場」をイメージしたセミナーを、3回生には、「自己PR」「教師像」「基本的なマナー」「面接」など、実際の教員採用選定試験を意識したセミナーを行い、その詳細をフォローアップで補う対策取ってきた。セミナーに参加することによって、採用試験への見通しをもち、面接指導の支援を気軽に活用していこうとする学生が増えることを願っている。そのために、特任教授と教職カウンセラーの学生情報の共有と助言内容の一貫性を踏まえた意思疎通を行い、協働的な取組を今以上に行っていく必要を感じている。来年度も特任教授と教職カウンセラーの情報交換の場を設けることによって、「協働」を意識し、確かな支援を行うことのできる教職支援センターに向けて取り組んでいきたい。

表3 教職応援セミナー

回	対 象	講 座 名
1	2回生 7月期	教育現場で学ぶ ～学生ボランティア・教育実習～
2	2回生 10月期	教育現場で学んだこと・課題
3	3回生 春	2回生までの振り返りと今後の課題
4	3回生 10月期	自己分析・自己PRを考える
5	3回生 11月期	あなたが目指す教師像 ～志望理由～
6	3回生 12月期	教員採用試験に向けて ～基本的なマナーを知る～
7	3回生 1月期	面接 ～思いを伝える～